

海水付着したトラック、点検・洗浄を

台風21号が近畿を直撃し、港湾地域では高潮による車両の水没をはじめ海上コンテナの海への流出、荷役機械などに大きな被害を受けている。

車両の水没被害では、車両のエンジン部分が水

没していなければエンジンに問題はないものの、海水による塩分が車両に付着し、様々な影響を与えるようで、車両の点検・洗浄が絶対に必要だと語る運送経営者も多い。

堺市に本社を構える運

落などの事故につながる恐れがある。走行可能と思っただけで運行していたら、大変な事態に陥る」と語る。

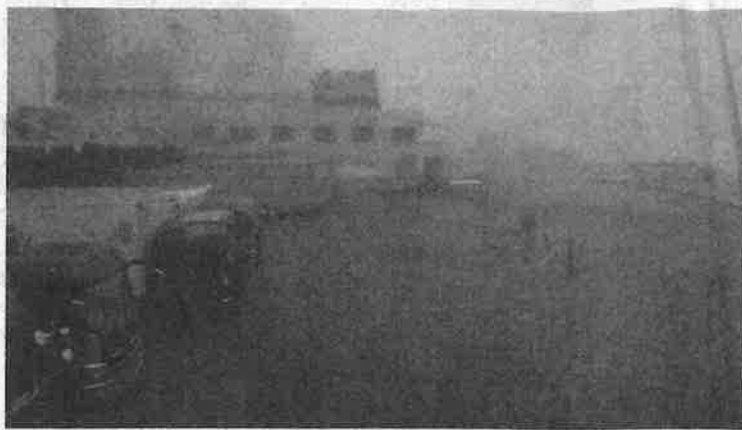
同市で鋼材輸送を展開するB社も「水没してい

送A社は「海水には濃い塩分が含まれているため、車輪など水没すると、グリスなどを固めてしまい、被災して数日は走行しても何ら問題はないものの、洗浄・点検しないまま運行していると、数週間か数か月後に火災や車輪脱

遭っていないとしても、配線・車両の足回りなどは十分に洗浄が必要で、仮にそのままでは塩分が電気を通しやすく、配線同士のショートで車両火災も考えられる」と指摘。

大阪市西成区で民間車検工場を行う関西自工では「ユーザーの中には約20台の車両が高潮による水没被害を受けていて、当社に修理の依頼をして

高潮で水没したトラック (提供写真)



腐食や火災の恐れ

きたが、エンジン部分も水没している車両は修理が不可能と断った。海水は濃い塩分が含まれていて、仮にエンジンなどを修理して動いたとしても細かな部分にまで塩分が付着し、腐食や火災などを引き起こす。エンジンの高さ以上に水没している車両については使用が不可能なケースが多い」と説明する。

同社には車両のガラス

破損での修理依頼が多く、ガラスを発注しても約2か月は納品されないことから、同社では応急処置などを行ってユーザーに対してはガラスが納品された時点での交換を呼びかけている。さらに、関西国際空港での車両の修理などの依頼も多く、休日返上で作業に追われている状態で、作業員の疲労を考慮しながら対応している状況だ。